

オリーブの搾りかすが 牛の飼料に再生

オリーブの実を搾ると、油分の約75%がオリーブオイルになりますが、残り約25%は搾りかすの中に残っています。それを牛などに食べさせ有効活用したのが「オリーブ飼料」です。オリーブ飼料を食べた牛のふんは、たい肥となり、オリーブ栽培等の健康的な土づくりに役立てられます。

オリーブ飼料の成分

●現物中

水分	粗たんぱく質	粗脂肪	可溶無窒素物	粗繊維	粗灰分
7.1	5.9	13.6	41.5	27.3	4.6

●乾物中表示

—	粗たんぱく質	粗脂肪	可溶無窒素物	粗繊維	粗灰分
—	6.3	14.6	44.7	29.4	5.0

※小豆島産オリーブかす(アグリオリーブ小豆島製造)

オリーブ飼料はヘルシー。

オリーブ飼料には、14.6%の粗脂肪を含みます。この飼料を食べた牛は、オリーブオイルに含まれる良質のオレイン酸なども摂取することになります。



循環型 農業

「オリーブ牛」が誕生。

オリーブ飼料を出荷2ヶ月以上前から食べさせた讃岐牛が、「オリーブ牛」として売り出されています。「肉の赤身が美しく、やわらかくて美味しい」と市場でも高評価を得ています。

オリーブ飼料ができるまで



オリーブの収穫
黒紫色に熟したオリーブ果実を手作業で収穫します。



オリーブオイルの搾油

果実を搾油機にかけて、高品質のエキストラバージンオリーブオイルを搾ります。搾りかすは、生のままでは渋味が強く牛は好んで食べません。



搾りかすの乾燥

脱水した搾りかすを100kg型と50kg型の乾燥機でかくはんしながら乾燥させます。100度の熱風で約8時間。天日干しをしていたころは手作業でかきまぜながら2週間もかかったそうです。

オリーブ飼料のできあがり



乾燥した搾りかすはキャラメルのような甘い香り。ほのかな甘味で牛のし好性がアップします。

